

NetIQ Identity Manager 4.9 リリースノート

2024 年 5 月

NetIQ Identity Manager 4.9 には、新機能や拡張機能が追加され、さらに使いやすくなっており、以前にあった問題もいくつか解決されています。このリリースの更新は累積的なものです。これらには、現行バージョンのソフトウェアの修正と拡張機能に加え、サービスパック、パッチ、ホットフィックスから以前にリリースされたすべての修正が含まれています。これらの改善の多くは、お客様からのご提案に直接応えることによって実現しました。お客様からの貴重なご意見に感謝いたします。弊社の製品が皆様のご期待に添えるよう、引き続きお力添えを賜りたく存じます。フィードバックは当社オンラインコミュニティ「NetIQ Communities」の [Identity Manager Community Forums](#) からお寄せください。こちらのコミュニティには、製品情報、ブログ、役立つリソースへのリンクなども掲載されています。

以前のリリースの新機能については、[Identity Manager マニュアルの Web サイト \(https://www.netiq.com/documentation/identity-manager-49/\)](https://www.netiq.com/documentation/identity-manager-49/) で「以前のリリース」のセクションを参照してください。

このリリースと最新のリリースノートについては、[マニュアル \(https://www.netiq.com/documentation/identity-manager-49/\)](https://www.netiq.com/documentation/identity-manager-49/) の Web サイトを参照してください。この製品をダウンロードするには、[Software License and Download \(ソフトウェアライセンスおよびダウンロード\) \(https://sld.microfocus.com\)](https://sld.microfocus.com) ポータルを参照してください。

- ◆ 2 ページの「新機能」
- ◆ 6 ページの「動作または操作の大幅な変更」
- ◆ 6 ページの「非推奨となった機能」
- ◆ 6 ページの「サポートされているコンポーネントのバージョン」
- ◆ 8 ページの「システム要件」
- ◆ 8 ページの「解決された問題」
- ◆ 12 ページの「NetIQ Identity Manager 4.9 のインストール」
- ◆ 16 ページの「NetIQ Identity Manager 4.9 へのアップグレード」
- ◆ 22 ページの「既知の問題」
- ◆ 32 ページの「Micro Focus への連絡方法」
- ◆ 32 ページの「保証と著作権」

新機能

Identity Manager 4.9 では、次の新機能と機能拡張が提供されます。

- ◆ [2 ページの「サポートしているオペレーティングシステム」](#)
- ◆ [2 ページの「NetIQ Audit, Compliance & Data Intelligence」](#)
- ◆ [3 ページの「Identity Manager ドライバが Java 11 をサポート」](#)
- ◆ [4 ページの「最新の認証のサポート」](#)
- ◆ [4 ページの「Identity Manager を FIPS モードで設定する機能」](#)
- ◆ [4 ページの「モニタリングフレームワークへのワークフローサービスの統合」](#)
- ◆ [4 ページの「Identity Applications の機能拡張」](#)
- ◆ [6 ページの「インストーラの機能拡張」](#)

NetIQ Identity Manager Designer 4.9 の新機能の詳細については、『[NetIQ Identity Manager Designer 4.9 リリースノート](#)』を参照してください。

サポートしているオペレーティングシステム

このリリースでは以下のプラットフォームのサポートが追加されました。

- ◆ Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 9.3、9.2、8.9、および 8.8
- ◆ Open Enterprise Server (OES) 24.2
- ◆ Identity Manager Designer に追加されたサポート
 - ◆ Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 9.2、9.1、8.9、8.8、および 8.7
 - ◆ SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 15 SP5
 - ◆ Windows 11 (デスクトップ)
 - ◆ macOS Sonoma

サポートされているオペレーティングシステムの完全なリストについては、『[Identity Manager 4.9 のシステム要件](#)』のページを参照してください。このリリースでサポートされるパッケージ化されたコンポーネント、データベース、およびブラウザについては、[6 ページの「サポートされているコンポーネントのバージョン」](#)を参照してください。

NetIQ Audit, Compliance & Data Intelligence

アイデンティティに関連するデータを視覚的に分析できる新たなツール、Audit, Compliance & Data Intelligence (ACDI) が Identity Manager に導入されます。このツールは、Identity Manager のソースからアイデンティティに関連するあらゆるデータを収集して処理し、ACDI ダッシュボードでレポートिंगおよびモニタリング機能を提供します。このツールの詳細については、『[NetIQ Audit, Compliance and Data Intelligence for Identity Manager](#)』を参照してください。

ACDI は Identity Manager 4.9 のアドオンとして利用可能で、[Software License and Download \(ソフトウェアライセンスおよびダウンロード \) ポータル](#) (<https://sld.microfocus.com/mysoftware/index>) からダウンロードできます。このツールは、Identity Manager 4.9 オフクラウドソリューションでのみ使用でき、オンクラウド展開では使用できません。

Identity Manager ドライバが Java 11 をサポート

このリリースでは、Identity Manager 4.9 ドライバに Java 11 のサポートが追加されました。更新されたドライバのリストを次に示します。

表1 Identity Manager 4.9 ドライバ、および 4.8.x の機能的に同等なバージョン

ドライバ	4.9 に付属のバージョン	ベースバージョン (Identity Manager 4.8.x)
Azure Active Directory (AD)	5.2.0.0000	5.1.7.0200
双方向 eDirectory	4.1.0.0000	4.0.8.0300
REST	1.3.0.0000	1.2.0.0000
区切りテキスト	4.1.0.0000	4.0.2.0200
GroupWise (REST ベース)	4.1.0.0000	4.0.1.1
Identity Gateway 統合モジュール	1.1.0.0000	1.0.1.0300
JDBC	4.3.0.0000	4.2.2.0400
JDBC ファンアウト	1.3.0.0000	1.2.8
JMS	4.1.0.0000	4.0.0
LDAP	4.3.0.0000	4.2.0.0200
Lotus Notes	4.2.0.0000	4.1.2.0100
手動タスクサービス	4.2.0.0000	4.1.0
Oracle E-Business Suite HR	4.2.0.0000	4.1.2.1
Oracle E-Business Suite TCA	4.2.0.0000	4.1.2.1
Oracle E-Business Suite User Management	4.2.0.0000	4.1.2.0101
PeopleSoft	5.3.0.0000	5.2.4.0
エンタイトルメントサービス	4.1.0.0000	4.0.1.0
Salesforce	4.2.0.0000	4.1.0.1
SAP HR	4.1.0.0000	4.0.4.1
SAP Portal	4.1.0.0000	4.0.2.0100
SAP User Management	4.1.0.0000	4.0.4.1
SCIM	1.1.0.0000	1.0.1.0300
ServiceNow	1.1.0.0000	1.0.0
SOAP	4.2.0.0000	4.1.0.1
WorkOrder	4.1.0.0000	4.0.0.0 100
Workday	1.4.0.0000	1.3.0.0200

ドライバ	4.9 に付属のバージョン	ベースバージョン (Identity Manager 4.8.x)
Identity Tracking for Sentinel	4.1.0.0000	4.0.2
ID プロバイダ	4.1.0.0000	4.0.0.0

Java クラスファイルの更新以外に新しい機能はありません。詳細については、[NetIQ Identity Manager ドライバ \(https://www.netiq.com/documentation/identity-manager-49-drivers/\)](https://www.netiq.com/documentation/identity-manager-49-drivers/) のページの「4.9 に付属のバージョン」を参照してください。

最新の認証のサポート

Identity Applications は、基本認証に加え、電子メールベースの承認のために、送受信電子メールの設定で最新の認証もサポートします。最新の認証では、より安全なユーザ認証とアクセス権限付与が提供されます。

また、最新の認証は Identity Manager エンジンに統合されているので、ポリシーの実行時に [ジョブの通知を認証](#) し、[テンプレートベースの電子メール](#) を配信できます。

注: このリリースでは、Microsoft Outlook に対しては Azure Active Directory (Azure AD) が提供する Office 365 OAuth 認証サービスを使用する最新の認証のみをサポートしています。

Identity Manager を FIPS モードで設定する機能

Identity Manager のコンポーネントを FIPS モードで設定できるようになりました。詳細については、『[NetIQ Identity Manager インストールおよびアップグレードガイド \(Linux 用\)](#)』の「[Configuring Identity Manager in FIPS Mode](#)」または『[NetIQ Identity Manager インストールおよびアップグレードガイド \(Windows 用\)](#)』の「[Installing and Configuring Identity Manager Components](#)」を参照してください。

モニタリングフレームワークへのワークフローサービスの統合

既存の LDAP 検索方法を使用して、環境内のワークフローサービスコンポーネントのモニタリングデータを取得できるようになりました。これを実行するには、アイデンティティポールドで `cn=idm,cn=monitor` という検索ベースを使用して検索要求を発行します。この機能拡張により、全体的なワークフロー、進行中のワークフロー、完了したワークフロー、過去 10 秒、60 秒、300 秒間の新規リクエストなど、さまざまな統計情報を使用して、ワークフローサービスのステータスを監視できます。

さらに、このリリースでは、ユーザアプリケーションの既存の統計情報に、さらに `jvm_stats` データが追加されます。これらの機能拡張の詳細については、「[Monitoring Identity Manager](#)」を参照してください。

Identity Applications の機能拡張

このリリースでは、Identity Applications に以下の機能拡張が導入されています。

Identity Applications ツールの拡張バージョン

NetIQ Identity Manager 4.9 は、Identity Applications ツールの拡張バージョンで更新されています。このツールで Java 11 プラットフォームがサポートされました。この機能拡張には次のユーティリティが含まれます。

- ♦ [ワークフロー移行ユーティリティ](#)
- ♦ [ワークフロー移行 API ユーティリティ](#)
- ♦ [クライアント設定移行ユーティリティ](#)

これらのユーティリティの使用方法については、リストのリンクをクリックしてください。

ワークフローのデフォルトのログ動作を変更する新しいプロパティ

「[Guidelines for Enabling Workflow Logging](#)」が更新されました。このリリースより、個々のパッケージの `workflow_logging.xml` ファイルで指定されたログレベルがデフォルトで優先されます。たとえば、`com.novell.soa.af.impl.timers` パッケージのログレベルを `DEBUG` に設定し、ワークフローエンジンのログレベル (グローバルレベル) を `INFO` に設定した場合、選択したパッケージについてのみ、`DEBUG` 情報がログに記録されます。他のパッケージとロガーはすべて `INFO` ログレベルで記録されます。

さらに、以前の動作に戻したい場合に備えて、`com.microfocus.workflow.engine.logging` という新しいプロパティも導入されました。ワークフローエンジンに対して設定したログレベルをパッケージのログレベルよりも優先させる場合は、`ism-configuration.properties` ファイルに `com.microfocus.workflow.engine.logging` プロパティを追加して `true` に設定できます。このプロパティの詳細については、『[NetIQ Identity Manager - Administrator's Guide to the Identity Applications](#)』を参照してください。

IDVault.get() 関数の変更

`IDMProv/rest/access/entities/list` のアクセス API が更新され、`lookupAttr` という新しいクエリパラメータが含まれるようになりました。デフォルトでは、`lookupAttr` は `false` に設定されています。`true` に設定すると、API は `filterAttr` パラメータで送信される属性の `[DNLookup]` 定義で指定された `[ルックアップ属性]` を返します。`filterAttr` は、この API で使用されるもう 1 つのクエリパラメータです。

たとえば、`IDVault.get` 関数を使用してアイデンティティボールドからユーザエンティティの直属の部下を取得する場合、メソッドの署名は次のようになります。

```
IDVault.get('IDM','/rest/access/entities/list',data.manager, 'user',  
["directReports"], true)
```

ここで、`directReports` が `filterAttr` として送信され、`true` が `lookupAttr` の値として送信されます。

`directReports` の `[DNLookup]` 定義では、`[User Lookup (ユーザルックアップ)]` エンティティの `[ルックアップ属性]` は、姓、名、およびイニシャルです。この関数に `true` 属性を追加すると、Identity Applications は直属の部下の姓、名、およびイニシャルを応答で返します。`[ルックアップ属性]` を設定しない場合、`[ルックアップ属性]` の値は応答で返されません。

インストーラの機能拡張

このリリースでは、インストーラに次の機能拡張が組み込まれています。

- Identity Manager Linux インストーラ内への Identity Console の統合。
- 新しい `ism-sensitive.properties` ファイルの導入。ここには、キーパスと、すべてのパスワードの暗号化に利用されるマスタストアパスが安全に保存されます。

動作または操作の大幅な変更

Identity Manager 4.9 のこのリリースでは、既存のアプリケーションや機能の動作に影響を与える可能性のある変更が導入されています。

- Linux および Windows プラットフォームで Identity Manager コンポーネントを設定する際には、IP アドレスではなくサーバの完全修飾識別名 (FQDN) または短縮名が必要です。
- 設定ユーティリティ (`configupdate.sh`) で、起動前にパスワードの入力が求められるようになりました。
- Windows サーバ上の Identity Manager 4.9 に Workday ドライバを設定する際にサンプルスタイルシートにアクセスしたい場合、スタイルシートは Identity Manager 4.9 Windows ISO 内の `\IdentityManagerServer\products\IDM\windows\setup\utilities\workday\transformation_style_sheets` にあります。

非推奨となった機能

このリリースより、NetIQ SecretStore のサポートは非推奨となります。今後、アカウントパスワードは、`notfSMTPMailPassword` という新しい属性に保存されます。この属性は `notfTemplateCollection` クラスに属し、User Application Driver (UAD) パッケージ `NOVLUABASE_4.8.8.20240401125038` に含まれています。Identity Manager 4.9 をインストールすると、この UAD パッケージは自動的にインストールされます。ただし、以前のバージョンからアップグレードする場合は、手動でパッケージを更新する必要があります。

最新の UAD パッケージにアップグレードして、Tomcat を再起動すると、NetIQ SecretStore リポジトリにある電子メールアカウントの既存のパスワードは `notfSMTPMailPassword` 属性に自動的に移行されます。このパスワード移行プロセスは、`ism-configuration.properties` ファイルで利用可能な、`com.netiq.idm.migrate.secretstore` プロパティで制御されます。デフォルトでは、このプロパティは `true` に設定されています。移行が完了すると、このプロパティは自動的に `false` に戻され、この状態を維持します。

サポートされているコンポーネントのバージョン

このセクションでは、コンポーネントのサポートされているバージョンについて説明します。

- [7 ページの「Identity Manager のコンポーネントのバージョン」](#)
- [7 ページの「サードパーティのコンポーネントのバージョン」](#)
- [7 ページの「データベース」](#)
- [8 ページの「Web ブラウザ」](#)

Identity Manager のコンポーネントのバージョン

Identity Manager 4.9 には、次のコンポーネントがバンドルされています。

- ◆ NetIQ eDirectory 9.2.9
- ◆ NetIQ Identity Console 1.7.2
- ◆ NetIQ Identity Manager エンジン 4.9
- ◆ NetIQ Identity Manager リモートローダ 4.9
- ◆ NetIQ Identity Manager ファンアウトエージェント 1.3
- ◆ NetIQ Designer for Identity Manager 4.9
- ◆ NetIQ Identity Applications 4.9
- ◆ NetIQ One SSO Provider (OSP) 6.7.0
- ◆ NetIQ Self Service Password Reset (SSPR) 4.7.0.1
- ◆ NetIQ Identity Manager Identity Reporting 7.2.0
- ◆ NetIQ Sentinel Log Management for IGA 8.6.1.0 (イベント監査用)
- ◆ NetIQ Identity Manager ドライバ

注：

- ◆ Identity Manager 4.9 は eDirectory 9.2.8 との互換性もあります。
 - ◆ Identity Manager 4.9 には、サポートされているドライバの最新バージョンが含まれています。詳細については、[NetIQ Identity Manager ドライバ \(https://www.netiq.com/documentation/identity-manager-49-drivers/\)](https://www.netiq.com/documentation/identity-manager-49-drivers/) のページの「4.9 に付属のバージョン」を参照してください。
-

サードパーティのコンポーネントのバージョン

このリリースでは以下のサードパーティコンポーネントのサポートが追加されました。

- ◆ Zulu 11.70+15-CA
- ◆ Apache Tomcat 9.0.85-1
- ◆ PostgreSQL 12.18 (スタンドアロンおよびコンテナ)
- ◆ OpenSSL 1.0.2zg-0
- ◆ Nginx 1.24.0-1
- ◆ ActiveMQ 5.18.3-1

データベース

NetIQ Identity Applications を含む Identity Manager 4.9 コンポーネントは、Identity Reporting を除き、すべて Oracle 21c および MS SQL 2019 と互換性があります。Identity Reporting 7.2.0 は、引き続き Oracle 19c および MS SQL 2017 データベースをサポートします。

Web ブラウザ

次のバージョン以上のいずれかのブラウザ：

- ◆ Google Chrome 126.0.6478.8
- ◆ Mozilla Firefox 126.0
- ◆ Apple Safari 17.5
- ◆ Microsoft Edge 124.0.2478.109

システム要件

ハードウェア要件とサポートされているオペレーティングシステムについては、「[Identity Manager 4.9 のシステム要件](#)」のページを参照してください。

解決された問題

このリリースには、次のソフトウェアの修正が含まれています。

コンポーネント	Global ID	説明
インストールとアップグレード	OCTCR56A583299	データベースが Microsoft SQL Server 上で管理されている場合、ワークフローエンジンが起動しない。
Identity Manager エンジン	OCTCR56A580623	SOAP ドライバによって DirXML-PersistentData 属性に重複するデータが追加されるため、iManager がダッシュボードを [Driver Set Overview (ドライバセットの概要)] ページにロードするときに例外が発生する。
	OCTCR56A584222	do-invoke-rest-endpoint アクションを使用してエンドポイントに対して REST 要求を実行すると、ユーザアプリケーションサーバへの接続がハングする。
Identity Reporting	OCTCR56A580314	MS SQL でレポーティングデータベースをクリアする際に、次のエラーメッセージが表示される: Incorrect syntax near the keyword 'CASCADE'。
	OCTCR56A581810	ドライバヘルスジョブのイベント (event-id: query-driver-ident) で、次の警告メッセージが生成される: Recovered from unexpected condition: @cached-time no available。
	OCTCR56A585188	/IDMDCS-CORE/rpt/collectors/{identifier}/trust エンドポイントに対する REST API DELETE 要求で、データコレクタレコードの collect_cert フィールドからトラステッド証明書が削除されない。
Identity Applications	OCTCR56A572998	非同期シナリオで、Form Builder のフィールドの検証機能と値の更新機能が機能しない。
	OCTCR56A573780	Sentinel Universal Collector が CEF Event: 3152C- User Message のメッセージフィールドを解析できない。

コンポーネント	Global ID	説明
	OCTCR56A580840	Dynamic Entity コンポーネントに基づくフォームフィールドに、ドロップダウンリストのデフォルト値として角括弧が表示される。
	OCTCR56A580876	RoleVault.getRolesUserIn 関数を使用して、/rest/access/assignments/role/list エンドポイントに対して REST API コールを実行した場合、指定したユーザの役割割り当て許可が 10 個しか取得されない。 Identity Manager 4.9 にアップグレードした後は、同じ関数に true 属性を追加することで、すべての役割に関する情報を取得できます。 構文: メソッドの署名は次のとおりです。 <pre>RoleVault.getRolesUserIn('IDM','/rest/access/assignments/role/list',userDN,true)</pre>
	OCTCR56A581016	Form Builder の異なるビューに切り替えた後に保存すると、フォームフィールドが表示されなくなる。
	OCTCR56A581716	Identity Manager 4.8.4 にアップグレードすると、ワークフローエンジンのログが機能しなくなる。
	OCTCR56A581762	外部の Web ソースにデータを問い合わせる際に、Select コンポーネントに余分な _regex 文字列が含まれる。
	OCTCR56A581978	Dynamic Entity コンポーネントをマルチタブのフォームで使っている場合に、 [戻る] ボタンを使用してタブに戻ると、選択されているユーザの表示名が変更される。
	OCTCR56A582360	動的フォームフィールドの検証チェックが失敗した場合に、JSON フォームにエラーが表示されない。
	OCTCR56A582959	RoleVault.getRoleAssignmentCause 関数を使用して、/rest/access/assignments/list/v2 エンドポイントに対して REST API コールを実行した場合、デフォルトで 10 個の役割の役割割り当て理由しか取得されない。 Identity Manager 4.9 にアップグレードした後は、同じ関数に true 属性を追加することで、すべての役割に関する割り当て理由を取得できます。 構文: メソッドの署名は次のとおりです。 <pre>RoleVault.getRoleAssignmentCause('IDM','/rest/access/assignments/list/v2',identityDn,roleDn,true)</pre>
	OCTCR56A583294	既存のチームを変更しようとしているときに、 [要求元] フィールドにグループを追加すると失敗する。
	OCTCR56A583369	フォームフィールドが Data Grid コンポーネント内にある場合、 [Refresh On (リフレッシュのタイミング)] 機能が動作しない。

コンポーネント	Global ID	説明
	OCTCR56A583373	日フィールドで、英語以外の言語のデータが正しく検証されない。
	OCTCR56A583421	シングルクォーテーション (') を使用してカスタムデフォルト値関数にコメントを追加すると、フォームが破損する。
	OCTCR56A583440	setFieldValue() 関数を使用してカスタムデフォルト値を設定すると、検証プロセスが無限に実行される。
	OCTCR56A583441	要求した許可が、アクセスが制御されたリソースにマッピングされている場合、ダッシュボードの [要求履歴] ページにエラーメッセージが表示される。
	OCTCR56A583590	Identity Manager で、認証済みのユーザに別のユーザの優先ロケールの変更が許可される。
	OCTCR56A583609	タスクを拒否した後も、[要求履歴] ページの [Request State (要求の状態)] に「プロビジョン済み」と表示される。
	OCTCR56A583692	[アプリケーションの管理] ページで、[HelpDesk Ticket (ヘルプデスクチケット)] タイル、またはタイルとしてアタッチされている他の PRD/ フォームを編集する際に、ブラウザのコンソールログにエラーが表示される。
	OCTCR56A583714	[委任割り当ての作成] ページで [作成] ボタンを複数回クリックすると、重複する委任が作成される。
	OCTCR56A583722	[要求履歴] ページで要求の詳細を確認する際に、ログアクティビティの作成者と、対応するコメントがスペースで区切られない。
	OCTCR56A583747	Javascript コードで alert() フォームアクションメソッドを使用すると、[JS Editor] と [Form JSON] が動作を停止する。
	OCTCR56A583754	Form Builder でフォームを再度変更すると、JS Editor に保存したカスタム関数がなくなる。
	OCTCR56A584217	Identity Manager ダッシュボードに表示されるフォームが、Form Builder のプレビューモードで表示されるフォームと異なる。
	OCTCR56A584275	[Enable Static Search (静的検索を有効にする)] が true に設定されている Select コンポーネントで、50 文字を超える値を検索できない。 Select コンポーネントで最大 1000 文字の長さの値を検索できるようになりました。
	OCTCR56A584283	コンポーネントのロジックを定義する際に、イベントによってトリガされるアクションのプロパティを選択できない。
	OCTCR56A584291	Select および Radio コンポーネントの [Label Position (ラベル位置)] が Left (Right-aligned) (左 (右揃え)) に設定されている場合、表示されるオプションが正しく揃わない。

コンポーネント	Global ID	説明
	OCTCR56A584322	Checkbox コンポーネントのカスタムデフォルト値関数がフォームの初回ロード時に実行されない。また、変更や、triggerChange() の明示的な実行によってトリガされたときにも実行されない。
	OCTCR56A584373	ダッシュボードの「タスク」ページが自動的に更新されない。承認フォームを使用してタスクを承認した後も、タスクが引き続きリストに表示される。
	OCTCR56A584374	ダッシュボードの「許可」ページの検索結果に、許可が角括弧または中括弧付きで一覧表示されなくなった。
	OCTCR56A584399	「設定」で「編集可能な属性」として設定されている属性を「マイプロファイル」ページと「ユーザ」ページで編集できない。
	OCTCR56A584489	PRD を要求する際に、「新規要求」ページに「有効日」と「有効期限」を入力するためのフィールドが表示される。
	OCTCR56A584625	ローカライズされたフォームでフィールドラベルが欠落する。
	OCTCR56A584638	表示制限 (要求または表示する項目の最大数) が設定されている Dynamic Entity コンポーネントで、一致する一部のエンティティが検索結果に一覧表示されない。
	OCTCR56A584639	オンラインモードを有効にしてからオフラインに移行し、再びオンラインモードに戻った場合、最初のログイン後に別の資格情報を使用して Form Builder にログインできない。
	OCTCR56A584666	「設定」>「カスタマイズ」の「Users List Container (ユーザリストコンテナ)」オプションが、「その他」ページの「新規要求」でユーザを一覧表示するために使用されない。
	OCTCR56A585183	Identity Manager ダッシュボードの「アプリケーション」ページに、許可されている項目のないカテゴリ見出しが表示される。
	OCTCR56A585185	カレンダー要素と時刻要素の両方を表示するように設定されている Date/Time コンポーネントで時刻の入力要素が欠落する。
	OCTCR56A585231	「マイプロファイル」ページの「電話番号」属性に入力された電話番号を編集または削除できない。
	OCTCR56A585264	Form Builder で、ユーザが Form Builder ビューを切り替えるたびにカスタムデフォルト値関数が実行される。
	OCTCR56A585443	タスクを他のチームメンバーに再割り当てする手順が文書どおりには機能しない。
	OCTCR56A585477	ユーザプロファイルページの署名属性に、署名イメージではなくテキスト値が表示される。
	OCTCR56A585503	インターネットに接続されていない Windows システムで Designer から Form Builder を起動すると、Form Builder が適切にロードされない。

コンポーネント	Global ID	説明
	OCTCR56A585527	Identity Manager 4.8.7 にアップグレードした後、サポートされているロケール (英語とポルトガル語を除く) で、[その他の許可] ページの許可カウンタが正しく配置されない。
	OCTCR56A585557	Form Builder の DN Display コンポーネントで、条件が設定されているとエラー メッセージが表示される。
	OCTCR56A585618	アップグレード後にユーザアプリケーションと SSPR にアクセスできない。この問題は、Identity Applications サーバで eDirectory 上の ndsd サービスと Tomcat を再起動すると一時的に解決しますが、ある程度の時間が経つと、これらのコンポーネントに再びアクセスできなくなります。
	OCTCR56A585698	Identity Manager が複数のクライアントを管理するように設定されている場合、[マイプロファイル] ページに間違った属性が表示される。
	◆ OCTCR56A584920 ユーザのカードビューと、Identity Manager ダッシュボードの [ユーザ] ページの属性に、クライアントのカスタマイズ設定で設定された属性とは異なる属性が表示される。 ◆ OCTCR56A585772	

NetIQ Identity Manager 4.9 のインストール

Identity Manager 4.9 では、Advanced Edition と Standard Edition を単一の ISO ファイルで提供しています。インストールファイルをダウンロードする前に、各エディションに搭載されている機能および Identity Manager コンポーネントをダウンロードする際のオプションを理解する必要があります。

- ◆ [12 ページの「Identity Manager Advanced Edition および Standard Edition でサポートされている機能」](#)
- ◆ [13 ページの「Identity Manager のダウンロード」](#)
- ◆ [14 ページの「実行可能ファイルおよびデフォルトインストールパスの場所の確認」](#)
- ◆ [16 ページの「NetIQ Identity Manager 4.9 のインストール」](#)

Identity Manager Advanced Edition および Standard Edition でサポートされている機能

さまざまなカスタマのニーズを満たすために、次の 2 つの製品グループで Identity Manager 機能が提供されています。

- ◆ Identity Manager Advanced Edition
- ◆ Identity Manager Standard Edition

Identity Manager Advanced Edition には、Identity Manager Standard Edition に用意されている Identity Manager の機能に加えて追加機能が含まれています。Identity Manager Advanced Edition と Standard Edition で使用可能な機能の比較を以下の表に示します。

機能	Advanced Edition	Standard Edition
ルールベースの自動化されたユーザプロビジョニング	対応	対応
リアルタイム Identity 同期	対応	対応
パスワード管理とパスワードセルフサービス	対応	対応
ユニフォーム Identity 情報ツール (Analyzer)	対応	対応
REST API およびシングルサインオンのサポート	対応	対応 (制限されたサポート)
現在の状態のレポートニング	対応	対応
役割ベースのエンタープライズレベルのプロビジョニング	対応	非対応
ビジネスポリシー適用に対する自動化された承認ワークフロー	対応	非対応
Identity Applications の高度なセルフサービス	対応	非対応
簡単なリソースプロビジョニングのためのリソースモデルとカタログ	対応	非対応
履歴状態のレポートニング	対応	非対応
接続されたシステムのレポートニング	対応	非対応
役割およびリソースの管理	対応	非対応

Identity Manager のダウンロード

Identity Manager 4.9 を購入したら、[Software License and Download \(ソフトウェアライセンスおよびダウンロード\) ポータル \(https://sld.microfocus.com/mysoftware/index\)](https://sld.microfocus.com/mysoftware/index) にログインして、購入したソフトウェアをダウンロードできるリンクに従います。各ファイルに含まれている Identity Manager コンポーネントを以下に示します。

ファイル名	説明
Identity_Manager_4.9_Linux.iso	Identity Manager Server (Identity Manager エンジン、リモートローダ、ファンアウトエージェント、Identity Console)、Identity Applications、および Identity Reporting が含まれています。
Identity_Manager_4.9_RL_Linux.iso	Linux 用の Identity Manager リモートローダが含まれています。
Identity_Manager_4.9_Containers.tar.gz	Identity Manager エンジン、リモートローダ、ファンアウトエージェント、ActiveMQ、PostgreSQL、フォームレンダラ、OSP、Identity Applications、Identity Reporting、SSPR、および Identity Console が含まれています。
Identity_Manager_4.9_Windows.iso	Identity Manager Server (Identity Manager エンジン、リモートローダ、ファンアウトエージェント)、Identity Applications、および Identity Reporting が含まれています。

ファイル名	説明
Identity_Manager_4.9_RL_Windows.iso	Windows 用の 64 ビットおよび .NET リモートローダが含まれています。
Identity_Manager_4.9_Designer_Linux.tar.gz	Linux プラットフォーム用の Designer が含まれています。
Identity_Manager_4.9_Designer_Windows.zip	Windows プラットフォーム用の Designer が含まれています。
Identity_Manager_4.9_Designer_MacOSX.dmg	macOS Sonoma 用の Designer ファイルが含まれています。
SentinelLogManagementForIGA8.6.1.0.tar.gz	Sentinel Log Management for Identity Governance and Administration (IGA) が含まれています。 このインストールは Linux 上のみでサポートされています。

重要 : Analyzer ツールは Identity Manager 4.9 の ISO に含まれません。Analyzer がすでにインストールされている場合は、必ずバージョン 4.8.5 に更新し、Identity Manager 4.9 とともに使用します。Analyzer のインストールとアップグレードについては、『[NetIQ Identity Manager インストールおよびアップグレードガイド\(Linux 用\)](#)』または『[NetIQ Identity Manager インストールおよびアップグレードガイド\(Windows 用\)](#)』を参照してください。

実行可能ファイルおよびデフォルトインストールパスの場所の確認

- [14 ページの「Linux 上の実行可能ファイルとデフォルトインストールパス」](#)
- [15 ページの「Windows 上の実行可能ファイルとデフォルトインストールパス」](#)

Linux 上の実行可能ファイルとデフォルトインストールパス

Identity Manager のコンポーネント	ISO 内の実行可能ファイルの場所	デフォルトのインストールパス
Identity Manager Server (Identity Manager エンジン、リモートローダ、ファンアウトエージェント、Identity Console を含む)	マウントされた場所の install.sh	♦ エンジン : /opt/novell/eDirectory/lib/dirxml ♦ リモートローダ : /opt/novell/dirxml/bin/x86_64 ♦ ファンアウトエージェント : /opt/novell/dirxml/fanoutagent ♦ Identity Console: /opt/novell/eDirAPI/sbin/

Identity Manager のコンポーネント	ISO 内の実行可能ファイルの場所	デフォルトのインストールパス
Identity Applications (Identity Manager ダッシュボードおよび管理インタフェース、ユーザアプリケーション、役割とリソースのサービスドライバ、ユーザアプリケーションドライバ、設定更新ユーティリティ、One SSO Provider、セルフサービスパスワードリセット)	マウントされた場所の install.sh	◆ 識別情報アプリケーション: /opt/netiq/idm/apps ◆ ユーザアプリケーション: /opt/netiq/idm/apps/UserApplication ◆ 設定更新ユーティリティ: /opt/netiq/idm/apps/configupdate ◆ フォームレンダラ: /opt/netiq/idm/apps/sites ◆ NGINX: /opt/netiq/common/nginx
Designer for Identity Manager	/designer/packages	/root/designer
Identity Reporting	マウントされた場所の install.sh	/opt/netiq/idm/apps/IDMReporting
パスワード管理コンポーネント	./install.sh (マウントされた場所の /sspr ディレクトリ内)	/opt/netiq/idm/apps/sspr
Sentinel Log Management for IGA	./install.sh (SentinelLogManagementForIGA8.6.1.0.tar.gz ファイルの /SentinelLogManagementForIGA ディレクトリ内)	/opt/novell/sentinel

Windows 上の実行可能ファイルとデフォルトインストールパス

Identity Manager のコンポーネント	ISO 内の実行可能ファイルの場所	デフォルトのインストールパス
Identity Manager Server (Identity Manager エンジン、リモートローダ、ファンアウトエージェントを含む)	\<iso mounted location>\IdentityManagerServer\ 内に配置された install.exe	◆ エンジン: C:\netiq\idm ◆ リモートローダ: C:\netiq\idm\RemoteLoader ◆ ファンアウトエージェント: C:\netiq\idm\FanoutAgent

Identity Manager のコンポーネント	ISO 内の実行可能ファイルの場所	デフォルトのインストールパス
Identity Applications (Identity Manager ダッシュボードおよび管理インタフェース、ユーザアプリケーション、役割とリソースのサービスドライバ、ユーザアプリケーションドライバ、設定更新ユーティリティ、One SSO Provider、セルフサービスパスワードリセット)	\<iso mounted location>\IdentityApplications\ 内に配置された install.exe	◆ 識別情報アプリケーション: C:\netiq\idm\apps\ ◆ ユーザアプリケーション: C:\netiq\idm\apps\UserApplication ◆ 設定更新ユーティリティ: C:\netiq\idm\apps\configupdate ◆ フォームレンダラ: C:\netiq\idm\apps\sites ◆ NGINX: C:\netiq\common\nginx
Designer for Identity Manager	Identity_Manager_4.8_Designer_Windows.zip ファイルの \designer_install\ フォルダ内に配置された install.exe	C:\netiq\
Identity Reporting	\<iso mounted location>\IdentityReporting\ 内に配置された install.exe	C:\netiq\idm\apps\IdentityReporting
パスワード管理コンポーネント	<iso mounted location>\common\sspr にある install.exe	C:\netiq\idm\apps\common\sspr

NetIQ Identity Manager 4.9 のインストール

インストールしているエディションに応じて、以下のリソースのいずれかの情報を確認します。

- ◆ Advanced Edition: 『[NetIQ Identity Manager インストールおよびアップグレードガイド \(Linux 用\)](#)』または『[NetIQ Identity Manager インストールおよびアップグレードガイド \(Windows 用\)](#)』
- ◆ Standard Edition: [NetIQ Identity Manager 4.9 Standard Edition をインストールおよびアップグレードするためのクイックスタートガイド](#)

NetIQ Identity Manager 4.9 へのアップグレード

Identity Manager 4.7.5 および 4.8.x (x は 0、1、2、3、4、5、6、7) バージョンから Identity Manager 4.9 に直接アップグレードできます。

アップグレードを開始する前に、現在のバージョンに対応するリリースノートを確認してください。

- ◆ [17 ページの「Identity Manager 4.8.x バージョンからのアップグレード」](#)
- ◆ [19 ページの「Identity Manager 4.7.x バージョンからのアップグレード」](#)

- ◆ 21 ページの「Advanced Edition へのアップグレード」
- ◆ 21 ページの「Standard Edition へのアップグレード」

Identity Manager のアップグレードに関する詳細については、『[NetIQ Identity Manager インストールおよびアップグレードガイド\(Linux 用\)](#)』の「Identity Manager のアップグレード」または『[NetIQ Identity Manager インストールおよびアップグレードガイド\(Windows 用\)](#)』の「Identity Manager のアップグレード」を参照してください。

Identity Manager 4.8.x バージョンからのアップグレード

次の表に、Identity Manager 4.8.x バージョンのコンポーネントごとのアップグレードパスを一覧表示します。

コンポーネント	ベースバージョン	アップグレード済みのバージョン
Identity Manager エンジン	4.8.x	1. オペレーティングシステムを、サポートされるバージョンにアップグレードします。 2. アイデンティティボールドを 9.2.9 にアップグレードします。 3. Identity Manager エンジン を 4.9 にアップグレードします。
リモートローダ / ファンアウトエージェント	4.8.x	4.9 リモートローダ / ファンアウトエージェントをアップグレードします。
Designer		Designer 4.9 をインストールします。

コンポーネント	ベースバージョン	アップグレード済みのバージョン
Identity Applications	4.8.x	Identity Applications をアップグレードする前に、アイデンティティポータルおよび Identity Manager エンジンがそれぞれ 9.2.9 および 4.9 にアップグレードされていることを確認します。 1. オペレーティングシステムを、サポートされるバージョンにアップグレードします。 2. Tomcat を停止します。 3. データベースを、サポートされるバージョンにアップグレードします。サポートされているデータベースのバージョンについては、NetIQ Identity Manager 技術情報 Web サイトを参照してください。 4. (状況によって実行) SSPR が別のサーバにインストールされている場合は、コンポーネントを 4.9 バージョンにアップグレードします。 5. Designer を使用して、ユーザアプリケーションドライバ、役割およびリソースドライバのパッケージを更新します。 6. Identity Applications を 4.9 にアップグレードします。 7. Tomcat を起動します。

コンポーネント	ベースバージョン	アップグレード済みのバージョン
Identity Reporting	4.8.x	Identity Reporting をアップグレードする前に、アイデンティティポータル、Identity Manager エンジン、および Identity Applications がそれぞれ、9.2.9、4.9、および 4.9 にアップグレードされていることを確認します。 1. オペレーティングシステムを、サポートされるバージョンにアップグレードします。 2. データベースを、サポートされるバージョンにアップグレードします。サポートされているデータベースのバージョンの詳細については、NetIQ Identity Manager 技術情報 Web サイト を参照してください。 3. SLM for IGA を、サポートされるバージョンにアップグレードします。 4. データ収集サービスドライバと管理対象サービスゲートウェイドライバのパッケージを更新します。 5. Identity Reporting を 7.2.0 にアップグレードします。 6. (状況によって実行) [Identity Manager データ収集サービス] ページからデータ同期ポリシーを作成します。 7. Tomcat を起動します。

アップグレードを開始する前に、[NetIQ ドキュメント \(https://www.netiq.com/documentation/identity-manager-49/\)](https://www.netiq.com/documentation/identity-manager-49/) ページで現在のバージョンに対応するリリースノートの情報を確認します。

Identity Manager 4.7.x バージョンからのアップグレード

次の表に、Identity Manager 4.7.x バージョンのコンポーネントごとのアップグレードパスを一覧表示します。

コンポーネント	ベースバージョン	アップグレード済みのバージョン
Identity Manager エンジン	4.7.5	1. オペレーティングシステムを、サポートされるバージョンにアップグレードします。 2. アイデンティティポータルを 9.2.9 にアップグレードします。 3. Identity Manager エンジンを 4.9 にアップグレードします。

コンポーネント	ベースバージョン	アップグレード済みのバージョン
リモートローダ / ファンアウトエージェント	4.7.5	4.9 リモートローダ / ファンアウトエージェントをアップグレードします。
Designer		Designer 4.9 をインストールします。
Identity Applications	4.7.5	Identity Applications をアップグレードする前に、アイデンティティボールドおよび Identity Manager エンジンがそれぞれ 9.2.9 および 4.9 バージョンにアップグレードされていることを確認します。 1. オペレーティングシステムを、サポートされるバージョンにアップグレードします。 2. Tomcat を停止します。 3. ユーザアプリケーションドライバ、役割およびリソースドライバのパッケージを更新します。 4. データベースを、サポートされるバージョンにアップグレードします。サポートされているデータベースのバージョンについては、NetIQ Identity Manager 技術情報 Web サイトを参照してください。 5. (状況によって実行) SSPR が別のサーバにインストールされている場合は、コンポーネントを 4.9 にアップグレードします。 6. Identity Applications を 4.9 にアップグレードします。 7. Tomcat を起動します。
Identity Reporting	4.7.5	Identity Reporting をアップグレードする前に、アイデンティティボールド、Identity Manager エンジン、および Identity Applications がそれぞれ、9.2.9、4.9、および 4.9 にアップグレードされていることを確認します。 1. オペレーティングシステムを、サポートされるバージョンにアップグレードします。 2. データベースを、サポートされるバージョンにアップグレードします。サポートされているデータベースのバージョンの詳細については、NetIQ Identity Manager 技術情報 Web サイトを参照してください。 3. SLM for IGA を、サポートされるバージョンにアップグレードします。 4. データ収集サービスドライバと管理対象サービスゲートウェイドライバのパッケージを更新します。 5. Identity Reporting を 7.2.0 にアップグレードします。 6. Tomcat を起動します。

アップグレードを開始する前に、[NetIQ ドキュメント \(https://www.netiq.com/documentation/identity-manager-49/\)](https://www.netiq.com/documentation/identity-manager-49/) ページで現在のバージョンに対応するリリースノートを確認します。

Advanced Edition へのアップグレード

NetIQ では、以前の Advanced Edition または Standard Edition から Identity Manager 4.9 Advanced Edition にアップグレードするために、次のアップグレードパスを提供しています。

- ◆ 4.8 Advanced Edition から Identity Manager 4.9 Advanced Edition にアップグレード
- ◆ 4.8 Standard Edition から Identity Manager 4.9 Advanced Edition にアップグレード (次の方法のいずれかを使用):
 - ◆ 4.8 Standard Edition から 4.9 Standard Edition にアップグレードしてから、Identity Manager 4.9 Advanced Edition にアップグレード
 - ◆ 4.8 Standard Edition から 4.8 Advanced Edition にアップグレードしてから、Identity Manager 4.9 Advanced Edition にアップグレード
- ◆ 4.7.5 Advanced Edition から Identity Manager 4.9 Advanced Edition にアップグレード
- ◆ 4.7.5 Standard Edition から Identity Manager 4.9 Advanced Edition にアップグレード (次の方法のいずれかを使用):
 - ◆ 4.7.5 Standard Edition から 4.9 Standard Edition にアップグレードしてから、Identity Manager 4.9 Advanced Edition にアップグレード
 - ◆ 4.7.5 Standard Edition から 4.7.5 Advanced Edition にアップグレードしてから、Identity Manager 4.9 Advanced Edition にアップグレード

Standard Edition へのアップグレード

Identity Manager 4.9 Standard Edition は、Identity Manager 4.8 Standard Edition からアップグレードできます。アップグレード手順については、[NetIQ Identity Manager 4.9 Standard Edition をインストールおよびアップグレードするためのクイックスタートガイド](#)を参照してください。

Identity Manager 4.9 Standard Edition は、引き続き以下のレポートに対応します。

- ◆ ユーザ別認証
- ◆ サーバ別認証
- ◆ データベース統計情報
- ◆ セルフパスワード変更
- ◆ パスワードリセット
- ◆ 識別ボールドライバ関連付けレポートの最新状態
- ◆ 識別ボールドユーザレポートの最新状態
- ◆ ユーザパスワード変更イベントサマリ

詳細については、『[Administrator Guide to NetIQ Identity Reporting](#)』を参照してください。

重要: レポートを使用するには、Identity Reporting に最新のレポート定義をインポートします。Reporting アプリケーションにログインし、アプリケーションで表示される [ダウンロード] ページを使用してレポートをダウンロードします。

既知の問題

NetIQ は、弊社の製品が企業のソフトウェアの必要にかなった質の高いソリューションを提供できるよう努めています。次の問題は、現在調査中です。問題解決のための詳細な情報は、[NetIQ サポート Web サイト](#)を参照してください。Designer の既知の問題のリストについては、「[NetIQ Identity Manager Designer 4.9 リリースノート](#)」を参照してください。

- 22 ページの「Windows インストーラで例外が表示される」
- 23 ページの「2 要素認証を使用している場合に、Identity Manager へのログイン時にエラーが発生する」
- 23 ページの「dirxml_remote プロパティと RLConsole プロパティに古い製品バージョンが表示される」
- 23 ページの「インストーラによって空のデータベーススキーマ SQL ファイルが生成される」
- 24 ページの「MS SQL データベースの使用時に一部のレポートでデータがフェッチされない」
- 27 ページの「Identity Console の [SMTP TLS を使用する] オプションに加えた変更が Identity Manager に反映されない」
- 27 ページの「Linux で、アップグレード後に iManager に空のページが表示される」
- 28 ページの「Warning: Illegal Reflective Access Operation Has Occurred」
- 28 ページの「Identity Manager を 4.9 にアップグレードした後、Tomcat が RHEL 8.x および 9.x で起動しない」
- 29 ページの「レベル 2 以上の関係階層の組織チャートのボタンがない」
- 29 ページの「アップグレード後に、リモートローダからドライバオブジェクトの無効なパスワードがレポートされる」
- 29 ページの「Catalina のログファイルで「StatusLogger Reconfiguration failed」というエラーが発生する」
- 29 ページの「Form Builder の問題」

Windows インストーラで例外が表示される

問題: Identity Manager 4.9 のコンポーネントをインストールした後に Tomcat を起動すると、「SEVERE [main] org.apache.catalina.util.LifecycleBase.handleSubClassException Failed to start component [Connector[\"ajp-nio-<IP_address>-8010\"]]」という例外が表示されます。

この問題は、新規インストール中、および Identity Manager 4.9 へのアップグレード後に発生します。
[Issue: OCTCR56A607041]

回避策: 機能が損なわれることはありません。ただし、この問題を解決したい場合は、server.xml ファイルの次の行を削除します。

```
<Connector port="8010" protocol="AJP/1.3" redirectPort="8543"/>
```

server.xml ファイルは C:\NetIQ\idm\apps\tomcat\conf にあります。

2 要素認証を使用している場合に、Identity Manager へのログイン時にエラーが発生する

問題: Identity Manager サーバ上の NetIQ One SSO Provider (OSP) に 2 要素認証用の NetIQ Advanced Authentication が設定されている場合、ユーザがログインに失敗することがあります。OSP のログファイルに、「Unexpected error while searching:
internal.atlaslite.jcce.exception.CoreInitializationException: No administrator password is configured (検索中に予期しないエラーが発生しました :
internal.atlaslite.jcce.exception.CoreInitializationException: 管理者パスワードが設定されていません) 」というエラーが表示されます。

[Issue: OCTCR56A605248]

回避策: 利用可能な回避策はありません。

dirxml_remote プロパティと RLConsole プロパティに古い製品バージョンが表示される

問題: Identity_Manager_4.9_RL_Windows.iso または Identity_Manager_4.9_RL_Linux.iso を使用してリモートローダをインストールまたはアップグレードした場合に、[dirxml_remote Properties (dirxml_remote のプロパティ)] ウィンドウの [Product version (製品バージョン)] が変わらないことがあります。ここには引き続き [4.8.0.0] と表示されます。同じ問題が [RLConsole] のプロパティでも発生します。[Issue: OCTCR56A608072]

回避策: リモートローダの機能に影響はありません。同じウィンドウの [File Version (ファイルバージョン)] をチェックして、リモートローダが正常にインストールされているかどうかを確認できます。

インストーラによって空のデータベーススキーマ SQL ファイルが生成される

問題: Identity Applications コンポーネントのアップグレード時に、データベーススキーマを作成するための write to file オプションを選択すると、空の databaseschema.sql ファイルと wfedatabaseschema.sql ファイルがインストーラによって作成されます。これらのファイルは空であるため、アップグレードの完了後にこれらのファイルを使用してデータベーススキーマを作成することはできません。[Issue: OCTCR56A586043]

回避策: サードパーティの Web サイトから、Identity Applications データベース用の適切なデータベース jar ファイルをアプリケーションサーバにダウンロードします。このファイルを別個のシステムまたはサーバに Identity Applications とともにインストールします。

Identity Applications の更新中に、インストーラによって「Identity Applications およびワークフローエンジンデータベース JDBC jar ファイル」のパスの入力が求められたら、インストールしたデータベース jar ファイルの場所を指定します。

MS SQL データベースの使用時に一部のレポートでデータがフェッチされない

問題 : MS SQL を Identity Reporting データベースとして使用している場合に、[Access Requests by Recipient (アクセス要求 - 受信者別)]、[Access Requests by Requester (アクセス要求 - 要求者別)]、および [Access Requests by Resource (アクセス要求 - リソース別)] の各レポートがデータを返しません。

[Issue: OCTCR56A604404]

回避策 : これらのレポートのデータをフェッチするには、次の手順を実行します。

- 1 Identity Reporting がインストールされているサーバにログインします。
- 2 SQL Server Management Studio などのデータベース管理者ツールを開きます。
- 3 次のクエリを実行します。

注 : <identity reporting database name> フィールドに、適切な Identity Reporting データベースの名前を指定します。

```
USE [<identity reporting database name>]
GO

/***** Object: UserDefinedFunction [IDM_RPT_DATA].[get_formatted_user_dn]
Script Date: 5/9/2020 7:03:55 PM *****/
DROP FUNCTION [IDM_RPT_DATA].[get_formatted_user_dn]
GO

/***** Object: UserDefinedFunction [IDM_RPT_DATA].[get_formatted_user_dn]
Script Date: 5/9/2020 7:03:55 PM *****/
SET ANSI_NULLS ON
GO

SET QUOTED_IDENTIFIER ON
GO

CREATE FUNCTION [IDM_RPT_DATA].[get_formatted_user_dn]
(
    -- Add the parameters for the function here
    @user_path nvarchar(max)
    , @user_name nvarchar(200)
)
RETURNS nvarchar(max)
AS
BEGIN
    DECLARE
        @new_path          nvarchar(200) ,
        @new_path_2        nvarchar(max) ,
        @l_user_path       nvarchar(max) ,
        @l_old_delimiter   nvarchar(1) = '\\',
        @l_new_delimiter   nvarchar(1) = '.',
        @MyCursor CURSOR,
        @MyField nvarchar(max);

    if @user_path is not null
```

```

BEGIN
SET @l_user_path = SUBSTRING(@user_path , 2 , (LEN(@user_path)-1));
SET @MyCursor = CURSOR FOR
    SELECT value FROM STRING_SPLIT( @l_user_path ,
@l_old_delimiter )
OPEN @MyCursor
FETCH NEXT FROM @MyCursor
INTO @MyField
    WHILE @@FETCH_STATUS = 0
    BEGIN
        if @MyField is not null
        BEGIN
            SET @new_path = @l_new_delimiter + @MyField;
        END
        if @new_path_2 is not null
        BEGIN
            SET @new_path = @new_path + @new_path_2;
        END
        SET @new_path_2 = @new_path;
        FETCH NEXT FROM @MyCursor
        INTO @MyField
    END
CLOSE @MyCursor
DEALLOCATE @MyCursor

    if @new_path is not null
    BEGIN
        SET @new_path = @user_name + @new_path;
    END
else
    BEGIN
        SET @new_path = @user_name;
    END
END
return LTRIM(RTRIM(@new_path));
END;

GO

CREATE FUNCTION [IDM_RPT_DATA].[patternReplace]
(
    @InputString VARCHAR(4000),
    @Pattern VARCHAR(100),
    @ReplaceText VARCHAR(4000)
)
RETURNS VARCHAR(4000)
AS
BEGIN
    DECLARE @Result VARCHAR(4000) SET @Result = ''
    -- First character in a match
    DECLARE @First INT
    -- Next character to start search on
    DECLARE @Next INT SET @Next = 1
    -- Length of the total string -- 8001 if @InputString is NULL
    DECLARE @Len INT SET @Len = COALESCE(LEN(@InputString), 8001)

```

```

-- End of a pattern
DECLARE @EndPattern INT

WHILE (@Next <= @Len)
BEGIN
    SET @First = PATINDEX('%' + @Pattern + '%', SUBSTRING(@InputString, @Next,
@Len))
    IF COALESCE(@First, 0) = 0 --no match - return
    BEGIN
        SET @Result = @Result +
            CASE --return NULL, just like REPLACE, if inputs are NULL
                WHEN @InputString IS NULL
                OR @Pattern IS NULL
                OR @ReplaceText IS NULL THEN NULL
            ELSE SUBSTRING(@InputString, @Next, @Len)
        END
    BREAK
END
ELSE
BEGIN
    -- Concatenate characters before the match to the result
    SET @Result = @Result + SUBSTRING(@InputString, @Next, @First - 1)
    SET @Next = @Next + @First - 1

    SET @EndPattern = 1
    -- Find start of end pattern range
    WHILE PATINDEX(@Pattern, SUBSTRING(@InputString, @Next, @EndPattern)) = 0
        SET @EndPattern = @EndPattern + 1
    -- Find end of pattern range
    WHILE PATINDEX(@Pattern, SUBSTRING(@InputString, @Next, @EndPattern)) > 0
        AND @Len >= (@Next + @EndPattern - 1)
        SET @EndPattern = @EndPattern + 1

    --Either at the end of the pattern or @Next + @EndPattern = @Len
    SET @Result = @Result + @ReplaceText
    SET @Next = @Next + @EndPattern - 1
END
END
RETURN(@Result)
END;

GO

```

4 [CDN](#) の Web サイトに移動します。

5 [\[Access Requests by Recipient \(アクセス要求 - 受信者別 \)\]](#) レポートをクリックします。

- 6 [Access-Requests-by-Recipient (アクセス要求 - 受信者別)] レポートの .rpz ファイルと .zip ファイルをダウンロードします。
- 7 [Access Requests by Requester (アクセス要求 - 要求者別)] レポートおよび [Access Requests by Resource (アクセス要求 - リソース別)] レポートに対して、手順 [ステップ 5](#) と [ステップ 6](#) を実行します。

Identity Console の [SMTP TLS を使用する] オプションに加えた変更が Identity Manager に反映されない

問題: Identity Console で電子メールサーバを設定するときに、ツリービューでデフォルトの通知テンプレートに対して `notSMTPUseTLS` 属性を有効または無効にした場合、同じ値が Identity Manager の [電子メールベースの承認] ページに表示されない場合があります。ただし、選択内容は保存されていて、電子メールサーバは設定に基づいて更新されます。

これは、Identity Applications と Identity Console で `notfSMTPUseTLS` LDAP 属性の更新方法が異なるために発生します。Identity Console で変更を行った場合、属性は直接更新されます。一方、Identity Manager の [電子メールベースの承認] ページの [発信電子メール設定] で [SMTP TLS を使用する] の値を変更した場合は、`ism-configuration.properties` ファイルの `com.netiq.rbpm.smtp.tls` プロパティが更新されます。ただし、Identity Console で選択した値は、Identity Manager の [電子メールベースの承認] ページに表示されていなくても適用されています。[Issue: OCTCR56A585739]

回避策: 一貫した動作を確保するには、Identity Manager の [電子メールベースの承認] ページの [発信電子メール設定] オプションの [SMTP TLS を使用する] の値を、Identity Console で選択した値に基づいて変更できます。

Linux で、アップグレード後に iManager に空のページが表示される

問題: Identity Manager を 4.9 にアップグレード後、iManager が他のコンポーネントと一緒にインストールされている場合、iManager が機能しなくなります。以前にインストールされたバージョンを起動しようとすると、iManager に空のページが表示されます。

回避策: iManager の代わりに Identity Console をインストールして使用します。ただし、Identity Manager をバージョン 4.9 にアップグレードした後も引き続き iManager を使用する場合は、以下を確認してください。

- iManager がスタンドアロンサーバにインストールされている。
- サーバに、サポートされているバージョンの Java がインストールされている。たとえば、Identity Manager 4.8.6 の場合は、iManager 3.2.6.0200 が Java JDK 1.0.8 Update 342 上にインストールされている必要があります。

古い Java ファイルを再使用するには、次の手順を実行します。

1. 次のコマンドを使用して新しいディレクトリを作成します。

```
mkdir -p /opt/novell/iManager/java_iman
```

2. iManager の既存の Java ファイルを新しいディレクトリにコピーします。

```
cp -r /opt/netiq/common/jre/ /opt/novell/iManager/java_iman
```

3. 所有者を新しいディレクトリに変更するには、次のコマンドを実行します。

```
chown -R novlwww:novlwww /opt/novell/iManager/java_iman
```

4. /etc/opt/novell/tomcat9/ に移動し、tomcat9.conf ファイルで JAVA_HOME と JRE_HOME を新しい Java パスに更新します。
5. 次のコマンドを使用して Tomcat を再起動します。

```
rcnovell-tomcat9 restart
```

Warning: Illegal Reflective Access Operation Has Occurred

問題 : Identity Applications の設定時に、次のメッセージが表示される場合があります。

Warning: An illegal reflective access operation has occurred

これは、Identity Applications の現在のバージョンが Java 11 を使用しているために発生します。

[Issue: OCTCR56A583685]

回避策 : この警告は機能には影響しません。これは無視して構いません。

Identity Manager を 4.9 にアップグレードした後、Tomcat が RHEL 8.x および 9.x で起動しない

問題 : RHEL 8.x または RHEL 9.x (x は 4.9 でサポートされるバージョン) を実行しているサーバで Identity Manager をバージョン 4.9 にアップグレードすると、データベース接続の問題により、OSP の起動に失敗します。これは通常、OSP の展開中にランダム鍵生成プロセスに予想以上の時間がかかる場合に発生します。結果として、Tomcat サービスも起動に失敗します。[Issue: OCTCR56A584564]

回避策 : /opt/netiq/common/jre/conf/security の場所にある java.security ファイルの以下の行を変更し、Tomcat を再起動します。

注 : この解決策を適用する前に、[RHEL のマニュアル \(https://access.redhat.com/documentation/en-us/red_hat_enterprise_linux/6/html/security_guide/sect-security_guide-encryption-using_the_random_number_generator\)](https://access.redhat.com/documentation/en-us/red_hat_enterprise_linux/6/html/security_guide/sect-security_guide-encryption-using_the_random_number_generator) で乱数ジェネレータの詳細を参照してください。

- ◆ 置換対象 : securerandom.source=file:/dev/random

これを以下に置き換えます。

```
securerandom.source=file:/dev/./urandom
```

- ◆ 置換対象 : securerandom.strongAlgorithms=NativePRNGBlocking:SUN

これを以下に置き換えます。

```
securerandom.strongAlgorithms=SHA1PRNG:SUN
```

レベル 2 以上の関係階層の組織チャートのボタンがない

問題: レベル 2 以上の関係の場合、表示する関係を選択するオプション、関係階層の次のレベルに移動するオプション、電子メールを送信するオプション、およびそのエンティティに関する詳細情報を表示するオプションが組織チャートに表示されません。この問題は、[一般設定] の階層深度がレベル 2 (またはそれ以上) に設定されている場合に発生します。 [Issue: OCTCR56A585426]

回避策: レベル 2 (またはそれ以上) の関係の場合に、組織チャートのボタンを表示するには、組織チャートでレベル 2 のユーザ / エンティティを検索します。

アップグレード後に、リモートローダからドライバオブジェクトの無効なパスワードがレポートされる

問題: Windows プラットフォームでリモートローダをバージョン 4.9 にアップグレードした後で、基本認証パスワードを使用して Active Directory ドライバに接続できなくなります。 [Issue: OCTCR56A584022]

回避策: Identity Manager を 4.9 にアップグレードした後で、次の手順を実行します。

- 1 リモートローダサーバのリモートローダインスタンスを停止します。
- 2 ドライバオブジェクトのパスワードとリモートローダのパスワードをリセットします。
- 3 Active Directory ドライバのリモートローダインスタンスを起動します。

Catalina のログファイルで「StatusLogger Reconfiguration failed」というエラーが発生する

問題: Identity Manager 4.9 を Windows プラットフォームにインストールした後に、catalina.out ログに以下のエラーメッセージが表示されることがあります。

```
ERROR StatusLogger Reconfiguration failed: No configuration found for '<xxxxxxxx>'  
at 'null' in 'null'
```

[Issue: OCTCR56A584800]

回避策: このエラーは機能には影響しません。これは無視して構いません。

Form Builder の問題

Form Builder で JSON フォームを操作しているときに、次のエラーが発生することがあります。

- ◆ 30 ページの「フィールド検証メッセージでメッセージが明確に伝わらない」
- ◆ 30 ページの「Designer をバージョン 4.9 にアップグレードすると、フォームフィールドに非配列の検証エラーが表示される」
- ◆ 31 ページの「Form Builder がスクロール中にハングする」
- ◆ 31 ページの「ボタンアクションが機能しない」
- ◆ 31 ページの「Tree コンポーネントの問題」

フィールド検証メッセージでメッセージが明確に伝わらない

問題: フォームフィールドの検証メッセージは、ユーザが無効な値や許容できない値をフィールドに入力した場合に、ユーザに通知します。通常、これらのメッセージはキーと値のペアで構成されており、その値がユーザへの表示対象です。しかし、このリリースでは、対応する値ではなくキーがフォームのフィールドに表示されます。たとえば、無効な電子メールアドレスを入力した場合、「Email must be a valid email (電子メールは有効な電子メールにする必要があります)」ではなく「invalid_email」が表示されます。

[Issue: OCTCR56A598009]

回避策: 英語のメッセージを追加するには、次の手順を実行します。

1. Form Builder を起動します。
2.  [ローカリゼーション] アイコンをクリックします。
3. [英語] をクリックして展開します。
4. 末尾のコンマ、およびメッセージのキーと値のペアを最後の行に追加します。

次に例を示します。

```
{
  "Submit": "",
  "error": "Please fix the following errors before submitting.",
  "invalid_date": "{{field}} is not a valid date.",
  "invalid_email": "{{field}} must be a valid email.",
  "invalid_regex": "{{field}} does not match the pattern {{regex}}.",
  "mask": "{{field}} does not match the mask.",
  "max": "{{field}} cannot be greater than {{max}}.",
  "maxLength": "{{field}} must be shorter than {{length}} characters.",
  "min": "{{field}} cannot be less than {{min}}.",
  "minLength": "{{field}} must be longer than {{length}} characters.",
  "next": "Next",
  "pattern": "{{field}} does not match the pattern {{pattern}}",
  "previous": "Previous",
  "required": "{{field}} is required"
}
```

5. [保存] をクリックします。

Designer をバージョン 4.9 にアップグレードすると、フォームフィールドに非配列の検証エラーが表示される

問題: 単一値のフォームフィールドに複数の値が含まれる場合、Form Builder に非配列の検証エラーが表示されるようになりました。この検証チェックは、Form Builder の最新バージョンで追加されました。したがって、Designer をバージョン 4.9 にアップグレードすると、既存のフォームでこの問題が発生します。[Issue: OCTCR56A586045]

回避策: このエラーを修正するには、次のオプションのいずれかを実行します。

- ◆ Form Builder でフォームを開き、影響を受けるフォームフィールドで **[Multiple Values (複数値)]** チェックボックスを選択します。これにより、**[Add Another (他を追加)]** フィールドにボタンが追加され、ユーザがさらに値を入力できるようになります。
- ◆ 影響を受けるフィールドのカスタムデフォルト値関数を変更して、配列に単一の値がある場合でも、配列で返される最初の値のみを表示します。

Form Builder がスクロール中にハングする

問題: **[Form JSON (フォームの JSON)]** ビューおよび **[JS Editor (JS エディタ)]** ビューで JSON フォームをスクロールしているときに、Form Builder がフリーズすることがあります。この問題は次の 2 つのシナリオで確認されます。

- ◆ 多数の関数とメッセージが含まれる JSON フォームを操作しているとき。
- ◆ 画面解像度がシステムの推奨値と異なっているとき。

[Issue: OCTCR56A602415]

回避策: 利用可能な回避策はありません。Form Builder を再起動することができます。

ボタンアクションが機能しない

問題: Designer 4.9 にアップグレードした後に、承認アクションおよび要求アクションに対して JSON フォーム内の Button コンポーネントが機能しません。[Issue: OCTCR56A604329]

回避策: 次の手順を実行します。

- 1 Button コンポーネントの **[Display (表示)]** タブに移動します。
- 2 **[Button Request Logic (ボタンの要求ロジック)]** フィールドまたは **[Button Approve Logic (ボタンの承認ロジック)]** フィールドで指定されているロジックをコピーします。
- 3 **[アクション]** を **[カスタム]** に変更します。
- 4 **ステップ 2** でコピーしたロジックを指定します。
- 5 **[保存]** をクリックします。

Tree コンポーネントの問題

Form Builder の Tree コンポーネントで次の問題が発生することがあります。

- ◆ フォーム **[Preview (プレビュー)]** のフィールドに非配列の検証エラーが表示される。このエラーは、Tree コンポーネントがデフォルト値を表示するように設定されている場合に発生します。この検証エラーを解決するまで、フォームを送信することはできません。[Issue: OCTCR56A585664]

このエラーを解決するには、**[Form JSON (フォームの JSON)]** ビューで、そのフィールドの ID を使用してデフォルト値を変更します。

- ◆ Tree コンポーネントの展開機能が予期したとおりに機能しない。**[Preview (プレビュー)]** フォームでサブコンテナを展開または選択できません。

- ◆ コンテナまたはサブコンテナを選択すると、フィールドに name ではなく dn の値が表示されます。

次の [データソースの未加工 JSON] は、Tree コンポーネントのサンプルデータです。

```
{
  "dn": "unique id",
  "name": "container data",
  "data": "any meta-data attached with the container",
  "subContainers": [
    {
      "dn": "id1",
      "name": "container data1",
      "icon": "glyphicon glyphicon-cloud"
    },
    {
      "dn": "id2",
      "name": "container data2",
      "data": "any meta-data attached with the container",
      "subContainers": [
        {
          "dn": "id3",
          "name": "container data3",
          "icon": "glyphicon glyphicon-cloud"
        }
      ]
    }
  ]
}
```

[Preview (プレビュー)] で [container data (コンテナデータ)] オプションを選択すると、フィールドに container data ではなく unique id が表示されます。[Issue: OCTCR56A603396]

Micro Focus への連絡方法

特定の製品の問題については <https://www.microfocus.com/support-and-services/> にある、Micro Focus サポートに連絡してください。

追加のテクニカル情報またはアドバイスについては、次の複数のソースを参照してください。

- ◆ 製品ドキュメント、ナレッジベース記事およびビデオ : <https://www.microfocus.com/support-and-services/>
- ◆ Micro Focus コミュニティページ : <https://www.microfocus.com/communities/>

保証と著作権

Copyright 2009-2024 Open Text.

Open Text、関連会社、およびライセンサ (「Open Text」) の製品およびサービスに対する保証は、当該製品およびサービスに付属する保証書に明示的に規定されたものに限られます。本書のいかなる内容も、当該保証に新たに保証を追加するものではありません。Open Text は、本書に技術的または編集上の誤りまたは不備があっても責任を負わないものとします。本書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。

証明書関連の通知および商標などの追加情報については、<http://www.microfocus.com/about/legal/>
(<http://www.microfocus.com/about/legal/>) を参照してください。